

佐伯胖所長 開会の挨拶

今日の発表をお聞きになるにあたって、ちょっと今まであまり聞いたことのないような考え方が入っていますので、そのことについて、説明してみたいと思います。ちょっと意外だなというふうな気がするかもしれないのはですね、子どもがなんかこう遊んじゃってるという場面が出てくるんですね、授業の中でですね。そういうことについて、以前この発表会を聞かれた方で、ちょっと遊びが授業の中で生まれちゃうと、これは指導力が行き届かなかったんじゃないかというので、これは大変だなと思っちゃうことがあるんですが、それが今日の発表を聞くと、なんだか大いにそれはいいんだみたいな話になって、非常に戸惑ったというような感想をされた方もおられたんですね。そこはちゃんとわかっていたらいいなと思うことなんです。つまり、子どもが、先生がこういったことはわかってほしいと思って一生懸命熱弁振るって授業やっててもですね、なんか勝手なことやって遊んじゃってるっていうことがあると、しまった、もうちょっとちゃんとしなきゃっていう思いが起るかもしれないかもしれませんが、今日の発表をお聞きになるとですね、なんかそれでもいいんじゃないのみたいなことになってるのでですね、戸惑われるかもしれないんです。実は、それは非常に大事なことなんです。

ジョン・デューイですね、非常に教育学では有名な方ですが、その方が、遊び心は真面目心と表裏一体になっていることが1番だと言うんです。物事を探求することは、遊び心と真面目心が一体になっているというのが1番望ましいことだというふうに言ってるんです。これはちょっと意外ではあるんですけども、ものすごく大事なことなんです。つまり、私たちは、子どもの活動の中に、こっちの想定したこととは違うことが生まれる、あるいは、子どもが何かに我を忘れてというか、あるいは人の言うことも忘れてと言った方がいいかもしれませんね、なんか夢中になってるということが起こると、ちょっとこっちの言うことちゃんと聞けよという思いが起るかもしれませんが、そういう、子どもが何かに夢中になってる、なんか妙に楽しんじゃってるってということが起こった時にですね、デューイの言葉を思い出して、実はそれが最も理想的な探求のあり方なんだというふうにデューイが言っていたんだということをぜひ思い浮かべていただきたいんです。つまり、予定された通りのことが起こるということよりも、予定していなかった想定外のことがその時生まれてそして子どもが何か想定外のことにやり始めて、夢中になってるってということが起こると、それは本当に探究の1番いい事態が今生まれているんだなということなんです。そのことをデューイが言っていたんだということを思い起こしてですね、やっぱりそれはやめろというか、あるいはそれを制止するんじゃなくて、そういう子どもが夢中になって、なんかこうワクワクして物事に熱中してることは本当に大事なことなんだなと思って、それを上手に見守るといえることがいかに大事かということなんです。

今日の発表の中にはそういった場面が色々出てくると思いますので、遊び心と真面目心は一体となってるのが、もう理想的だとデューイが言ってたんだなということを思い返していただけると1番いいかなと思います。本日はよろしくお願ひします。